

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会 広報紙 2024年5月号 (No.57)

おかしなことだらけ NUMOが行うインタビュー

文献調査の報告書作成のために、NUMOが「対話の場」や「町の将来に向けた勉強会」の参加者にインタビューを行っています。町民の会の一部会員もその対象になりました。ですが、インタビューと言いながら、自分たちの都合のいいように誘導、解釈しようとする姿勢が露骨です。3人の会員がその実態を明かします。

<なぜNUMOは嘘をつくの？ 会員A>

NUMOの方々は、それはそれは丁寧・親切に私たちに接します。インタビュー依頼に来た彼らと話して「ああ、こういうのを慇懃無礼って言うんだな」と思いました。「依頼」という姿勢でありながら、こちらの意見や要望に応える気などない「ただの押し付け」でしかなかったからです。「録音するけど、あなた達が録音するのは禁止です」「インタビューに2時間位要するけど質問事項は秘密です」「この日どうですか（こちらは選べない)」。こんな事ばかりでした。

更に沢山の嘘も見えました。インタビュー対象者は「対話の場」「町の将来に向けた勉強会」「幌延や六ヶ所村に視察に行った」メンバー合わせて100人程で全てに協力依頼をしようと言っていたのですが、依頼の連絡すら来ていない人が多々いる事が分かっています。

何故嘘をつくの？？ これで総括とはとても言えないし、**たった30~40人から話を聞いただけで「町民の声を十分に聞いた」等とは絶対に言って欲しくないと思っています。**更に言うと、NUMO職員や「対話の場」に関わったファシリテーターも、インタビューの対象になるべきだと強く感じています。



<対話の意味も分からない人たち 会員B>

私は「町の将来に向けた勉強会」に参加していた為、聞き取りの対象になりました。勉強会から3月14日のインタビューまで不信感しかありませんでした。今後、他市町村で文献調査が行われる時の為の参考になるインタビューを受けるのは嫌でしたが、それよりもこの町で起こっている大小の分断・秘密主義の対話の場・勉強会のおかしさを皆さんに知って欲しくてインタビューを受けることにしました。

当日は、ずっと感じていた「対話の場の意味」を町や NUMO の方はどう理解しているのか？私はインタビューの前に「NUMO の皆さんが思っている対話とファシリテーターの意味を聞きたい」と口火をきったところ「今回は皆さんへのインタビューとなっていますので私達は答えられない」と言われました。「私達だけに聞くのはおかしい。対話をどう理解されているのか聞きたい。答えてもらえないなら私も答えたくないです」とカッとなってしまいました。結局答えてくれたものの、しどろもどろ。今の対話の場の説明を何回か繰り返されました。これ以上聞いても無駄だと思い、向こうのインタビューを受けました。結果、対話の意味も分からない人がいる中で対話の場なんてやるなよ。が、一番の感想でした。



<「対話の場振り返り」ってなに？ 会員 C>

2月27日に NUMO 土屋副所長から「午後2時に訪問して対話の場の振り返りについて説明したい」と電話があった。私は2021年3月24日付で「寿都町対話の場」の委員に役場から指名を受け、第1回対話の場に参加しましたが第2回から辞任しておりました。この度の位置づけは旧会員ということでした。

訪問を受けるにあたり「振り返りの」目的について文書を要求しました。要請してから10日後に届いた書面には「この振り返りは、今後、新たに文献調査を実施する自治体内外において地域対話を進める際の参考となるよう、これまでの経験教訓、留意事項を整理することを目的としており（以下5行略）」とありました。

チョッと考えてください。「振り返り」ということは私自身が現実に起こった出来事を客観的に思い返し、そこから自身を見つめ直すことです。なぜ私が NUMO の事業を振り返る必要があるのか。核ゴミ地層処分地調査受け入れを表明した寿都町やそれを取り組んだ彼らが「振り返り」を行って、そのうえで町民が評価をするなら理解できる。私は自宅での聴取を希望したがそれに提供する約1時間への対価は「ご協力をお願いする」のだそうで、言葉遣いはやたら丁寧だが常に上から目線で手前勝手な要求してくる姿勢には信頼感は全く感じませんでした。

3月14日に調査会社を名乗る人物2名、NUMO 関係者3名の訪問を受け、聞き取りに応じたが、質問項目の書面はコピーも撮影も許されず回収する、調査会社名も秘密で当然調査員の名刺もなし。対応はとても紳士的だが、すべて秘密主義であり、質問書を回収されたことで私の答えた「振り返り」は質問を受けながら書き写したものしかない訳です。

この調査に係る経費は私たちの電気料金を財源にしています。彼らが質問した内容の書面が私達に残されていないのですから、国への報告書案には彼らの事業推進にとって都合の悪い意見等は決して載せないだろう、もしかすると無かったことになるのだろうと肌で感じた1時間でした。



ゴアレーベン抵抗の歴史

ドイツの教訓 抵抗と市民的不服従の歴史

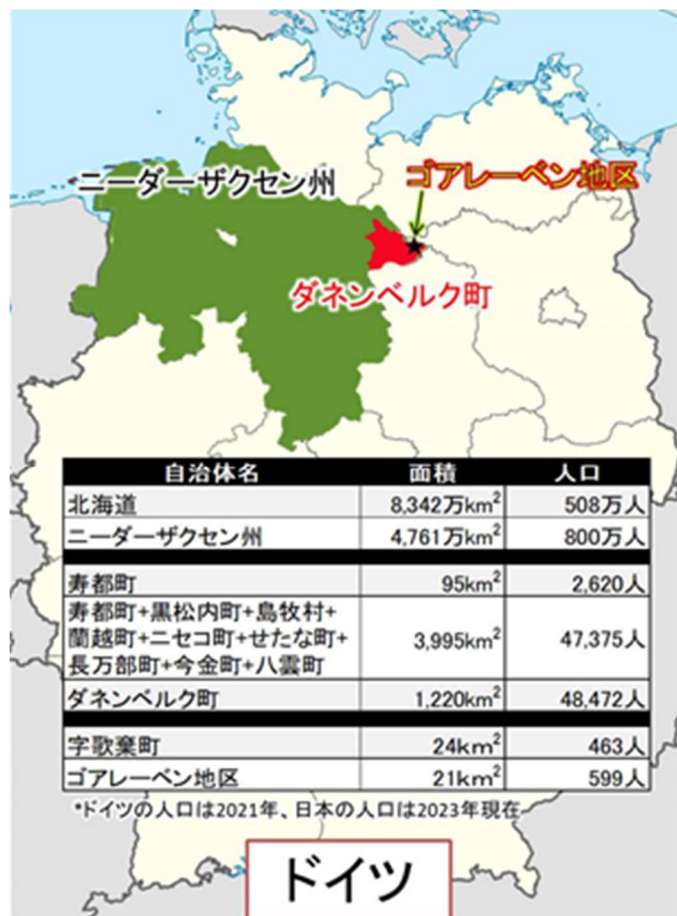
ドイツのニーダーザクセン州にあるダネンベルク町のゴアレーベン地区。1977年2月、当時の知事がこの地に高レベル放射性廃棄物の最終処分場を建設すると宣言してから47年もの間、「上から押し付けられた物事に、自分たちで考えて服従しない」活動をつづけた人々がいました。なぜ、闘争が長期にわたって続いたのでしょうか。

【活動の中心メンバー】

ダネンベルク町周辺では1973年に原発建設計画が立ち上がり、農民を中心とした住民30人が発起人となって、誤ったエネルギー政策に批判をすること目的とした「環境保護市民イニシアチブ・リューフ・ダネンベルク (BI)」を発足させていました。BIが地層処分への反対の中心となり、周辺の地区の住民に問題意識が波及していったのです。BIのメンバーは2024年現在でも1000人規模を誇り、その活動は気候変動問題の分野にもつながっています。

【行動原則】

BIは、①広報活動（何に反対してリスクをとらえていたのか）、②法律に勝つための裁判、③デモを活動の3本柱としていました。活動は音楽ライブを伴った総合芸術で、単に核のゴミは嫌だという主張で終わらなかったそうです。そもそも、ゴアレーベンが最終処分場選ばれた理由は東ドイツ西ドイツの国境に面し、経済的にも目立ったものもなく、土地も安かったことが挙げられています。そして、その闘争の内容が芸術性を帯びていたのは70~80年の初めはヒッピーの時代。都会の消費生活を嫌って自活を目指し、安い土地を求めてダネンベルク町に文化人、アーティストが集まってきていたという背景があったのです。



【土地を売らなかった名士とBIの活動】

そんなダネンベルク町のゴアレーベンに位置した岩塩鉱山が地層処分の候補地となり、1978年の春には核燃料再処理公社(DWK)が土地の買収を開始。しかし、ここで破格の金額を提示されても、岩塩鉱山の大部分の土地を所有していた元伯爵が、家訓を守って土地を一切売らなかったことが、最終処分の進行を阻む大きな壁となったことが、反対活動の土台にありました。

ゴアレーベンでの最終処分反対活動は、調査を妨害するためにトラクターで現地を封鎖したり、掘っ立て小屋の共和国を作ったり、廃棄物を持ち込む鉄道のリールに座り込みをするなど非暴力的抵抗活動や、音楽バンドを伴うパレードが繰り返されました。その間に1977年の米国スリーマイル島原発の放射能漏れ事故が起き、1986年のロシア・チェルノブイリ原発の過酷事

故が発生したことでドイツの国土が汚染され、原子力発電への全国的懸念が高まります。そして、1989年には再処理工場計画の候補地の市長が計画に反対したことで、ドイツでも使用済み核燃料はフランスでの再処理委託することに舵が切られます。

【キャスクなんてまっぴら】

ゴアレーベンの岩塩ドームでの地層処分は、事前の調査によって結果が良くなかったにも関わらず、適していると判断されていました。1995年、そこにガラス固化体が入った輸送容器「キャスク」を調整施設（のちの中間貯蔵施設）に運び入れるためのパイロット事業が始まるとずさんな管理でトラブルが続出。BIメンバーは数千人もの市民を集め、鉄道の線路封鎖を試みしました。国は最大1万8千人もの警察を動員しても抗議運動を止めることはできないほど、市民の抗議運動は粘り強いものがあったのです。

【連合政府による第一の脱原発の決定】

2000年にドイツで脱原発が妥協的に決定されるとともに、ゴアレーベンの地層処分の動きも一時停止（モラトリアム）が決定されました。このことで、高レベル放射性廃棄物最終処分に関する基本的な問題点を再び議論し直すこととなります。また、2002年にドイツの原子力が改正され、使用済み核燃料の再処理の過程では大量の放射性廃棄物が排出され環境汚染につながる問題から、これを中止することになりました。

【フクシマが止めた 原子炉と地層処分調査】

2011年の東日本大震災での原子力災害を契機に、ドイツ全国各地で大規模な脱原発を求めるデモが起きました。これにより、メルケル首相は2000年の妥協的脱原発政策によって順次停止しつつあった原子炉を2022年までにすべて停止するという期限を発表（脱原発法成立）。2012年までにゴアレーベンへのキャスクの輸送は続き、大きな抵抗と衝突がありましたが、2013年に連邦環境大臣がゴアレーベンでの地層処分調査を停止することを発表。ただし、ほかの候補地との地質的比較対象のためゴアレーベンは地層処分の候補地から2020年まで除外されることはありませんでした。この間、連邦議会の最終処分場委員会では「地質学的な問題を問いただすのではなく、政党や州の勝手な政治的思惑の方を重んじる議論ばかり行われ、どうやってゴアレーベンの信頼を取り戻すということが言えるのか？」と厳しく問われました。

【ドイツの地層処分の今】

現在、ゴアレーベンには高レベル放射性廃棄物の中間貯蔵施設があります。ドイツ全土で対話活動を行い、全土で文献調査に該当する調査を行い（ゴアレーベンはこの時点で不適地となり除外）、調査の結果地質的に適切な地域で概要調査に相当する地表調査の候補地点を10か所に絞る方針に変わりました（詳しくは町民の会のチラシNO.46参照）。地層処分開始は2080年までは難しいと言われていますが、腰を据えて国民と議論することになったのです。

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6

TEL/FAX : 0136-62-3630 kakugomino@gmail.com

HP : <http://kakugomi.no.coocan.jp/>

FB : <https://www.facebook.com/106569234530018/>

北海道銀行寿都支店(店番号 304)普通 0481374

ゆうちょ銀行 記号:19070 番号:44246811



2024年5月号 (No.57)